

令和7年度中山間ふるさと保全委員会開催結果

1 開催日時

令和8年3月23日（月）13時30分～16時00分

2 場所

京都ガーデンパレス

3 出席委員

星野委員長、田村委員、中村委員、深町委員、湯浅委員

4 議題

- (1) 令和7年度活動報告（基金活動、参加型住民づくり事業）
- (2) 令和7年度活動報告（農村地域再構築推進事業）
- (3) 令和7年度活動報告（農村型地域運営組織形成推進事業（伴走支援事業））
- (4) 令和8年度活動計画について

5 概要（結果及び主な意見）

- (1) 令和7年度活動報告（基金活動、参加型住民づくり事業）

＜質疑応答及び意見＞

【ふるさと発見隊】

- ・経費はどのような費目で支出しているのか

→主な計上費目は小学校から活動場所への移動に係るバス代の旅費や、模型の修繕の需用費等

- ・親子ふるさと体験の募集・周知の方法は

→小学校（教育委員会）へのQRコードを掲載したチラシの配布

【参加型住民づくり事業】

- ・畑の会活動内容にあるゴミの削減は、南山城村にとっても事業負担が軽減されるメリットがある。事業終了後も活動を継続していくためにも、ぜひ村と連携されたい

- ・専門知識を身につけた活動者が、今後新しく地域に来た方の指導者になりうる仕組みづくりは行っているか

→活動テーマに留まらず、広がりのある取組をおこなっている団体で、意欲的な方が多く参加されている。ぜひ地域にアドバイスしていきたい

【共通】

- ・活動内容がある程度パターン化されていると感じるが、そこに地域に根差した活動内容を上手く盛り込んでいただきたい。また、長期的な視点での事業の効果検証の必要性を感じる
- 子供達が将来 U ターンするきっかけとなるのも事業効果の一つだと考えているが、なかなか効果検証しづらい側面もある。もう少し短期でどういった効果が図れるか今後検討していきたい
- ・資料のボリュームがあり、また、成果などの記載にバラつきもある。全体概要の資料で今年度の取組の特徴や成果を示した上で、各地域の詳細が分かる資料をつけてはどうか
- ・5法指定地域が限られており要望があっても活動拡大が難しい地域などで、何か対応する方法がないかも考えていただきたい

(2) 令和7年度活動報告（農村地域再構築推進事業）

<質疑応答及び意見>

- ・集落カルテ作成後は内容の分析と改善が肝心。今後府内全体で作成されたカルテを集積し工夫点等を共有できれば、府内全域が良くなっていくと思う
- ・集落カルテの分析結果について、作業内容など地区ごとの特徴あったか
- 地区の規模が大小さまざまだったが、大きい地区は意思決定に時間がかかり、プランニングがスムーズに進みづらいといった特徴があった

(3) 令和7年度活動報告（農村型地域運営組織形成推進事業（伴走支援事業））

<質疑応答及び意見>

- ・行政はジョブローテーションの問題があるからこそ、中間支援組織の活躍や新たな組織の育成が重要となる。資料作りにおいても誰に伝えるかを意識し、より相手方に制度の魅力を感じてもらえるよう工夫いただきたい
- ・伊根地区の事例については事業評価の視点から上手くいっていると捉えているのか
- 支援体制そのものは上手くいっているが、事業全体を通して考えた際には課題もあると感じている

(4) 令和8年度活動計画について

＜質疑応答及び意見＞

- ・地域の頑張りを評価する指標が必要だと感じる。事業効果を金銭に換算する等手法は色々あるが、研究チームを立ち上げ、客観的な数値目標の設定を令和9年度目標に検討されたい

【総括】

- 基金の対象はソフト事業のため、ハード整備に比べ事業額の規模は小さいものの、日々の調整等を人件費に換算すると多大な乗数効果をもたらしていると感じる
- 農村型地域運営組織形成推進事業（伴走支援事業）はこれまで社会実験的な側面もあったかもしれないが、今後は実施してきたことをノウハウとして蓄積していくことが事業の発展においては必要になる
- 京都府としての事業成果の見える化と評価の実施は非常に重要なこと。可能な限り具体的かつ客観的な指標をもとに活動の必要性を伝えていけるよう努力いただきたい